



プレコンセプションケア研究会発足記念 オンラインミーティング

ワイガヤで思春期女子に聞いてみよう！

「HPVワクチンは打つ？打たない？」

「生理が辛い時どうしたらいい？」

6月12日(日)10:00～11:30 オンライン(ライブ視聴のみ) **無料**

★医療者、教育者、学生、思春期の子供をもつ親、当事者など、
プレコンセプションケアに興味のある方ならどなたでもご参加ください！

<講師> 出嶋 弥広氏 / 東京ベイ浦安市川医療センター 産婦人科医師
長坂 桂子氏 / 西武文理大学看護学部 准教授 母性専門看護師
小林 香織氏 / NPO 法人フィット・フォー・マザー・ジャパン 理事長 健康運動指導士
<ゲスト> COCOさん(中学生) 他

HPVワクチン接種率1.9%、ピル内服2.9%、20代の子宮がん検診
26.5%、かかりつけの婦人科医を持つ女性...不明・・・
これが日本のプレコンセプションケアに関する状況です。

プレコンセプションケア教育においては、専門家の見解と当事者の
声を反映させることがよりの確な活動に繋がると考えられますが、
その両方を聞く機会はなかなかありません。

そこで、今回、産婦人科医、母性専門看護師、運動指導士など
女性の健康にかかわる専門家と思春期女子のリアルな声を聞く
場をつくりました。

プレコンセプションケアについて、一緒に考えてみませんか。

主催: 中部大学生命健康科学部保健看護学科 横手直美(母性看護学)
共催: NPO法人フィット・フォー・マザー・ジャパン <https://www.fitformotherjapan.org/>

お申込みはコチラ



<http://ptix.at/5aZXNQ>

プレコンセプションケア研究会

SDGs 目標3「すべての人々に健康と福祉を」のターゲットの一つに「妊産婦死亡率の削減」が掲げられています。世界の現状を見ても、2017年のデータでは毎日約810人の女性が、妊娠・出産に伴う予防可能な原因で死亡していますが、日本では、医師や助産師が出産に立ち合い、妊婦健診・産後健診も整備されているため、妊娠・出産に伴う母子の死亡リスクは低くなっています。しかし「マザーキラー」と言われる子宮頸がんの増加、次世代の健康問題への懸念や発達段階に応じた包括的な性教育が十分に行われていない等、多くの課題があり、若い人々が自らの健康、将来の健康、次世代の健康も見据えたプレコンセプションケアが重要視されています。これらの多重課題解決のために「プレコンセプションケア研究会」を発足しました。